視察報告書

報告者：加藤　義幸

視　察　日	平成 29 年 10 月 3 日（火）
視　察　内容	鳥取県米子市：史跡米子城跡保存活用計画について
視　察　者	山崎憲伸、加藤義幸、鈴木静男、杉浦久直

【米子市の概要】

鳥取県の最西端に位置し島根県に隣接。県西部地域の中心都市で、「山陰の商都」と呼ばれるなど古くから商業活動が盛ん。JR3 線や中国横断道が通り米子鬼太郎空港が置かれるなど山陰の交通の要衝。自然と都市機能が調和し、特に医療機関が充実。2015 年に経済産業省作成『生活コストの「見える化」システム』において、暮らしやすさ日本一と評価され、2015 年国勢調査では 2010 年の前回調査より人口が約 1,000 人増加した。

2015 年 10 月策定の「米子がいな創生総合戦略に基づき、人口減少・少子高齢化対策等の地方創生の取組を進めている。2016 年スタートの第 3 次総合計画において、市民が主体となったまちづくりを進め、地域経済の活性化や子育て支援・高齢者福祉等の充実、教育文化の振興等を総合的かつ計画的に行うことにより、市民一人ひとりが、豊かな自然を享受しながら、働く場があって希望と誇りをもって充実した生活を送ることの出来る「生活充実都市・米子」のさらなる進化を目指している。

面積＝132.42k ㎡、人口＝約 15 万人

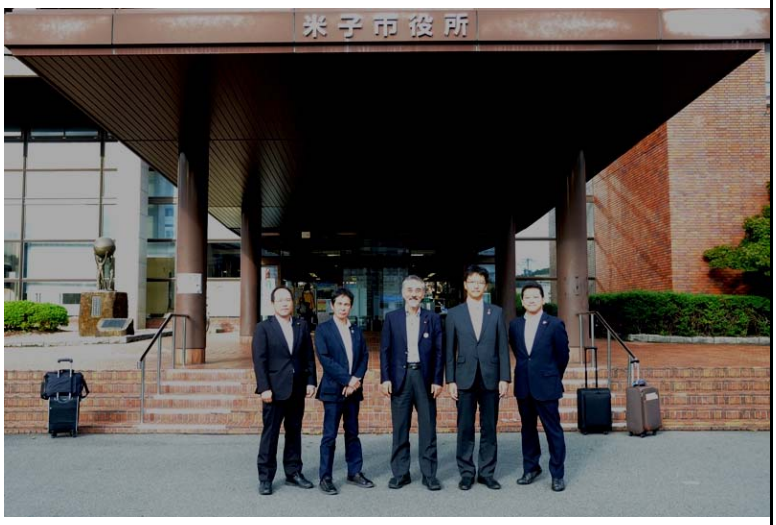
【史跡米子城跡保存活用計画について】

《計画策定の経緯・背景》

文化財保護の取組みとしては、この間、発掘調査や石垣修復工事、園路整備等を実施してきたが、いずれも部分的かつ短期的、応急的な対処にとどまり、文化財として史跡が有する価値の保存を図る整備としては十分とはいえないものであった。

保存については、文化財的価値を後世に確実に継承していくために必要な米子城跡の主要な価値（国の史跡に値する歴史的、文化財的、景観的な価値）や、米子城跡を構成する様々な要素の明確化、現状変更に関する取扱いをはじめとした保存の基本計画が定められていない。

活用については、都市公園として市民や観光客の憩いの場、さらには、城跡の持つ魅力発信のソフト事業を展開する場として活用されているが、文化財としての保存と活用の両立、史跡の価値を活かした事業のあり方を検討する必要が生じている。



整備については、樹木の適切な管理、景観の確保、文化財の保全、便益施設の充実等の課題がある。

運営・体制については、現在のところ文化財保護を担当する部局と都市公園としての維持管理を担当する部局で連携して当たっているが、十分に調整が図られていない部分もある。

こうした状況の中で、米子城跡の保存、活用、整備、運営・体制等に関する現状と課題の把握、これに基づく今後の対応の方向性、方策を明確にする必要があった。

《保存のための整備》

＊米子城跡の価値を表す遺構等の確実な保存と適切な修復の推進

①保存にあたっては、現状保存を原則とした検討を進める。

②発掘調査により確認された地下に埋蔵されている遺構等については、覆土等による適切な保存措置を講じる。

③石垣等地上に露出する遺構については、調査研究成果に基づき適切な保存措置を行う。

④米子城跡の価値を構成する城郭等の遺構や、関連する遺構及び米子城跡の全体像を理解する上で重要な箇所が、史跡指定地外の区域にも存在することを踏まえ、史跡の追加指定等を視野に入れた適切な保存を図る。

《活用のための整備》

＊来訪者が安全・快適に利用できる環境づくりの推進

①登城路、周遊道路、散策道等の園路を適切に維持管理し、安全性、快適性を向上するための整備を行う。

②来訪者の安全及び快適な利用に資するため、わかりやすく統一感のあるサインへの改善及び設置を景観に配慮して行う。

③遺構の保存や景観に留意しながら、来訪者の適切な利用に資する休憩施設、トイレ等便益施設の整備を行う。

④遺構の保存や景観に留意しながら、来訪者の安全・快適な利用を促す階段、手すり、照明等の管理・運営のための施設整備を行う。

⑤駐車場もしくは乗降場としての車寄せの整備を行う。

⑥イベントの開催等多目的な利活用に対応できる広場の整備を行う。

＊史跡米子城跡の価値を的確に伝達する活用整備の推進

①調査研究の成果に基づき、客観性を確保した適切な手法を用いて、歴史的建造物の復元展示及び来訪者に、往時の米子城の状況を想起させる遺構の表現方法の検討を行う。

②史跡米子城跡の価値を理解する上で重要な要素（地上に露出している遺構や重要な場所）については、現地でそのことが理解できる解説板等の設置を行う。

③現在埋め立てられている内堀の表出、復旧等の方策について検討する。

④施設の新設、既存施設の活用等によるガイダンス機能の向上を図る。

＊市民が米子城跡を身近に感じ、来訪者が米子城跡の存在を感じる整備の推進。

①まちなかで米子城跡の存在を感じることのできるサイン等の設置を行う。

《公開・活用》

＊史跡米子城跡の魅力に触れる多様な機会の創出

①蓄積された調査研究の成果や今後実施される調査、整備の状況を積極的に公開し、多くの人と米子城跡の価値を共有する機会を設ける。

②城下町や日本遺産「旧加茂川の地蔵」、中海等、米子城跡の周辺地域が有する特徴的な歴史文化資源・自然資源を活用した取組を推進する。

③関連する都市と連携した取組等により、多種多様なソフト事業の展開を図り、米子城跡の魅力を広く普及啓発する

《体制整備》

＊多様な関係者が相互連携できる保存活用体制の構築

①文化財部局だけでなく、まちづくり、観光、公園部局等、関係する米子市の様々な部局間の相互連携を強化するとともに、整備に向けた組織づくり、人材の確保等についての検討。

②行政機関のみならず、市民、地元自治会、ＮＰＯ法人、観光団体や専門家等の多様な関係者が連携し、様々な取組を推進する体制の組織化を図る。

《米子城　魅せる！プロジェクト事業》

＊事業の概要

米子城跡整備事業による歴史公園化を推進していくためには、市民をはじめ観光客等の来訪者

に対して、米子城跡の魅力をさらに広範囲にわたってＰＲし、整備に向けての周知を図り、関心を高めていく必要がある。これらを通して、米子を代表する貴重な遺産としての米子城跡を保護し、後世に伝えていく意識の醸成に寄与するため、国史跡米子城跡の価値や魅力を紹介し、保存整備に対する理解を深めてもらうために、城跡を利活用した市民参加型イベント等を連続的に実施する。28 年度事業費は、全額市費で 114 万 4 千円 9 つの事業を実施。

【感想・岡崎市への反映】

・米子市においては、まずは米子城跡の価値をわかってもらうための工夫をしっかりと考え実行している。魅せる！プロジェクト事業もその１つで、さらに米子を好きになってもらう、愛着をもってもらうための事業展開に繋げていることがわかる。

　本市の城跡整備においては、日本一と言われる菅生川端石垣は見つかっており、価値を顕在化して、岡崎の観光の柱の１つとして欲しい。

・史跡米子城跡保存活用計画策定時においては市民に米子城跡の歴史的価値の認識が希薄であったが、フォーラム等で市外の著名人や有識者によって城跡の価値があらためて評価されることにより市民の認識が向上したとのことである。

岡崎市においても施策を展開する折には、前もってそういったフォーラム等を開催し、前もってある程度市民の認識の向上を計っていくことは、施策を展開していく上で有効な手段であると思われる。

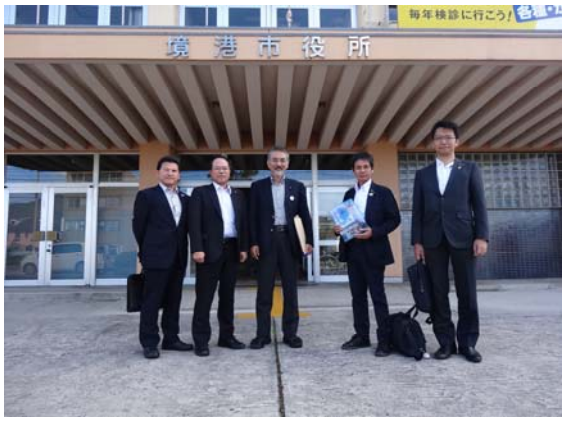
・米子城跡の将来への継承を見据えての調査研究や地域シンボルとしての存在意識を高め、地域振興や地域活性化へ寄与するためには、史跡整備や保存管理の体制整備や庁内の体制の強化が必要であると伺った。また、史跡の価値やその保存への理解の普及、活用には市民協働がとても大切とのことであり、正にその通りだと感じた。

・米子城跡は城郭建築は残っていないが、高台の上に石垣が残され市街地から見上げるランドマークとなっている。かつて城の周囲に迫っていた中海の海岸線も後退し、堀も埋まり、三の丸跡が商業施設や野球場となるなど、かつての面影からかなり変容している部分もあるようであり、市長の選挙マニフェストに、城跡、城下町整備が掲げられ、米子城跡の保存活用計画が策定されたが、整備基本構想が示されたところであり、今後整備検討委員会により整備基本計画策定に取り組むということで、まだまだ課題が多いようである。城跡を案内してもらったが、調査により登り石垣ではないかという遺構が確認されているが、樹木の伐採から始めないとなかなか保存も難しそうだと感じた。一方、市街地を望む高台にあるという利点から、登ったところの見晴らしはよく、そうした面での活用が検討されていくようである。いずれにしろ、岡崎城のように、城跡の散策路の照明や安全などの配慮が十分なされた城跡でないところが、逆に魅力にも感じた。市民にさらに魅力を感じてもらう取り組みを進めていかれるようであるが、あまり整備しすぎないほうが魅力が残るように思う。岡崎城跡もそうであるが遺構が残っていないもの、顕在化されにくいものをどう整備していくかは市民の理解を得ながら進めていく必要がある。

政策調査報告書

報告者：鈴木　静男

視　察　日	平成２９年１０月４日（水）
視 察 内 容	JR 境港駅周辺整備及び観光施策について
視　察　者	山崎　憲伸、加藤　義幸、杉浦　久直、鈴木　静男



＜境港市の概要＞

中国地方の北部、鳥取県の西部の市。日本海側の重要港湾として栄えてきた街である。境港市は鳥取県内で最も人口が少ない市であるが中国地方で最も面積が狭く、人口密度は山陰地方最多である。

面積：29.10ｋ㎡
人口：34,174 人

■水木しげるロード

＜取組と経緯＞

平成元年から始まった「緑と文化のまちづくり」をテーマに JR 境港駅から商店街を結ぶ目抜き通りに境港市出身の水木しげる氏が描く漫画の妖怪オブジェ・モニュメント・絵タイルを歩道に設置し、人々に優しく、親しまれる快適な道づくりを進めてきた。

当初は市民に歩いて頂くことを考えていたが、新聞、テレビでも大きく取り上げてられるなど、大変な反響があり、その結果全国から多くの観光客が訪れる名所となった。

一部完成（平成 5 年 7 月）から 20 年が経過した平成 26 年 3 月に、水木しげるロードの賑わいを今後も継続させることを目的として、水木しげるロードリニューアル事業実施に向けた基本構想を策定。平成 27 年実施計画、平成 28 年度に一部工事着工、平成 30 年度夏の完成を目指している。

＜特徴＞

妖怪を題材としたユニーク成とストーリー性

彫刻と黒御影石の台座が一体化し、新しい町並みを形成。堅苦しい彫刻ではなく、誰でもが触れて、親しめるもの。

＜総事業費＞

4 億 4 千万円

（内訳）市債　　3 億 4 千 2 百万円：自治省商店街等整備特別事業）
宝くじ助成金　　3 千 4 百万円
一般財源　　6 千 4 百万円

＜整備内容＞

総延長 800 メートル（境港市大正町、松ヶ枝町、本町）
妖怪オブジェ　153 体（平成 8 年 8 月完成時は 82 体）
妖怪レリーフ　5 基
絵タイル　　8 枚
アーケイド改装　延長 550 メートル
公衆トイレ、ポケットパーク、大正川橋整備

■水木しげる記念館

＜施設概要＞

「水木しげるロード」関連事業の集大成。

境港市出身の漫画家・水木しげるの人と作品世界、氏が世界中から集めた妖怪に関するコレクションなど、貴重な品々を中心に、館独自に製作したオブジェ等を多数展示。水木しげる氏の創出した、独創的かつ多様な「作品」の世界、そして、氏の哲学や精神の現れである「妖怪」の世界を映像で紹介する。平成 23 年度に開館以来最大規模のリニューアルを実施し、水木しげる氏 90 歳の誕生日である平成 24 年 3 月 8 日にリニューアルオープンした。

＜事業費等＞

事業費　　約 4 億 8 千万円
敷地面積　　1,643 ㎡
建物床面積　1,141 ㎡

＜開館日＞

開館日　　平成 15 年 3 月 8 日（水木しげる氏 81 歳の誕生日）
開館時間　午前 9 時 30 分～午後 5 時
休館日　　年中無休（平成 21 年 9 月より）

■民間等による取組

水木しげるロード完成後、住民や民間事業所等による妖怪をテーマにした新しいまちづくりの取り組みが生まれた。

・活動団体

ゲゲゲのしげる会	水木しげる氏のファンクラブ
水木ロードを育てる会	自主的な清掃・防犯活動
鬼太郎音頭保存会	「鬼太郎音頭」「ゲゲゲのふるさと」妖怪サンバを創作
水木しげるロード振興会	商業振興団体
株式会社アイズ	民間まちづくり会社
水木しげるロードの安心・安全を守る会	水木しげるロードにおける防犯活動交通安全活動を実施

・ハード関係

年・月	内容	企業名・団体名等
H5.9	鬼太郎列車	ＪＲ西日本㈱米子支社
H8	妖怪立て看板、シャッターペイントなど（にぎわいのある商店街づくり補助事業）	松ヶ枝町商店街
H12.1	妖怪神社	㈱アイズ
H12.3	妖怪ポスト設置	郵政省
H12.12	鬼太郎の塔	境港海陸運送㈱
H13.3	妖怪壁画（妖怪倉庫）	境港海陸運送㈱
H17.3～H18.3	妖怪ブロンズ像２９体（スポンサー公募（H16.10～）による）	妖怪ブロンズ像設置委員会（境港市観光協会ほか）
H17.11	ＪＲ境線観光路線化	ＪＲ、鳥取県、米子市、境港市
H18.1	鬼太郎フェリー就航	隠岐ＪＣ、隠岐汽船㈱等
H18.7	鬼太郎交番	鳥取県警
H18.7	がいな鬼太郎（高さ 7.7m、重さ 90 トンの石像）	大漁市場なかうら
H19.4	ゲゲゲの妖怪楽園オープン	やのまん
H19.6	妖怪街灯 43 基（スポンサー公募による）	境港商工会議所、境港市観光協会
H20.5	航空機３機(C-1･YS-11･T-400)に「鬼太郎」記念塗装（航空自衛隊美保基地開庁 50 周年記念）	航空自衛隊美保基地
H20.10	ＪＲ境港駅（ﾌﾟﾗｯﾄﾎｰﾑ・ｺﾝｺｰｽ・壁面・天井）装飾	ＪＲ西日本㈱米子支社
H22.3	「水木しげる夫妻」ブロンズ	㈱実業之日本社
H22.4	「隠岐へ向かう鬼太郎親子と水木しげる先生」ブロンズ像	水木しげるロード延長プロジェクト
H23.11	妖怪トーテムポール	境港市観光協会
H23.11	妖怪デザインベンチ２０台を観光協会に寄贈	鳥取銀行
H24.8	巨大妖怪イラストボード（みなとさかい交流館外壁）	鳥取県
H24.9	ゲゲゲの鬼太郎メロディーロード（県道 47 号）	鳥取県
H24.11	妖怪ブロンズ像１１体（スポンサー公募による）	境港市観光協会
H29.4	妖怪ブロンズ像１８体（スポンサー公募による）	境港市観光協会

■境港市観光協会の取組

＜組織＞

事務局　　職員数６人
観光案内所　　職員数３人
みなとまち商店街　職員数８人

＜業務内容＞

各種事業の企画・運営、観光客誘致、特産品 PR、イベントの企画・運営、観光案内所の運営、境港国際旅客ターミナル観光案内所の運営等

・観光案内図作成
・観光ガイドブックの作成
・妖怪ガイドマップの作成
・旅行者とタイアップし、旅行商品の造成実施
・新聞、雑誌への観光 PR 広告出稿
・TV、新聞、雑誌等マスコミに対して積極的に情報提供を実施
・妖怪ガイドマップを利用したスタンプラリーの実施
・書籍等の発行、販売
・レンタサイクル事業　市内２次交通対策の一環でレンタサイクル 15 台を整備

＜観光案内所問合せ件数等＞

平成 28 年度　案内所問合せ件数：88,423 件（242/日）
平成 28 年度　HP アクセス件数　：363,362 件（996/日）

＜スポンサー公募による事業＞

観光協会が中心となって全国にスポンサーを公募し、各種事業を実施

開始	内容	委員会等名称
H16.11	1 体 100 万円で、ブロンズ像スポンサーの募集開始。当初の予想を大幅に上回る応募があり、29 体設置。	妖怪ブロンズ像設置委員会
H19.1	妖怪街灯スポンサーを募集し、43 基設置	妖怪街灯増殖推進委員会
H23.7	1 口 5 万円で妖怪トーテムポール設置費用のスポンサーを公募・設置	妖怪トーテムポール設置委員会
H24.7	再度、11 体のブロンズ像スポンサーを公募・設置	境港市観光協会
H29.7	水木しげるロードリニューアルに向け 18 体のブロンズ像を公募設置	境港市観光協会

＜境港市からの補助＞

以下のルールで補助金を交付
・人件費　80%
・企画事業、宣伝事業、事務費　50%

平成 28 年度補助金額（当初予算）
事務局、案内所　　32,051 千円
みなとまち商店街　15,989 千円

〔感想・岡崎市への反映〕

平成元年から始まった「緑と文化のまちづくり」をテーマに JR 境港駅から商店街を結ぶ目抜き通りに境港市出身の水木しげる氏が描く漫画の妖怪オブジェ・モニュメント・絵タイルを歩道に設置し、人々に優しく、親しまれる快適な道づくりを進めてきた。

当初は市民に歩いて頂くことを考えていたが、新聞、テレビでも大きく取り上げてられるなど、大変な反響があり、その結果全国から多くの観光客が訪れる名所となったとのことである。本市においても、今後、人道橋と籠田公園を結ぶ（仮）セントラルアベニューや岡崎城総堀周辺をなぞる「ＱＵＲＵＷＡ」事業においても、人々に優しく、親しまれる快適な道づくりの観点を取り入れていくことも必要であると感じた。

〔同行者の所感〕
・平成 15 年マンガ家の水木しげるの誕生日に合わせ水木しげる記念館がオープンした。
このような記念館はオープン直後こそ入館者数が多いが、その後は下降の一途を辿るというのが一般的な状況であるが、この記念館ではその後も順調に入館者数が推移しているとのことである。
その理由としては、水木しげるワールドの魅力とボランティア民間団体と行政がタッグを組んだ多くのイベントにあると感じた。
境港市では、インフラ整備は行政、イベントなどのソフト事業は民間というある程度明確な役割分担ができているようである。
岡崎市においても人道橋等のインフラ整備後は、民間に大いに活用していただき、多くのイベント等を開催していくことが岡崎市の活性化に有効であると感じた。

・境港駅に向かう電車からすでに、鬼太郎を感じさせる演出がなされており、駅前から商店街に向けたモニュメントの整備など、水木しげるの生誕地を活かした魅力化がなされており、観光客で賑わっている様を感じられた。境港市は従来は観光地ではなく、港町であったものが、地道な取り組みの結果、観光産業都市化したものであり、その成果が観光入込客数の推移や、記念館の運営の黒字で、建設時の起債を償還した事実からも伺うことができる。テレビの影響による一過性のものとせず、その後も継続して一定の結果を残していることには、細かな施策の積み重ねがあり、感心せざるをえない。本市としても、細かな施策の積み重ねと、やはり観光の核となるなんらかの物語の魅力化が同時に進められなくてはいけないと感じる。武将隊だけでなく、さらなる物語の創出がなされるような施策を考えていきたい。

・水木しげるロードは、当初市民の皆さんに散歩して頂こうとの思いで、整備が進められたが、マスコミ等で取り上げられたことで、全国から観光客が訪れることになり、うれしい誤算であったようだ。水木しげるロード完成後に幾つかの活動団体が、妖怪をテーマにしたまちづくりに取り組んでいることが、地元愛の醸成、活性化に一役も二役もかっているようだ。ロード内にある、水木しげる記念館は、年間で 5,000 万円以上の黒字をだしていることも特筆すべきことである。
　現状に満足せず、新たに、ロード整備を進めていることもすばらしい。本市において今後整備が予定されている中央緑道も市民に愛される整備を行い、その後の、観光客アップにつなげるべきと考える。

政策調査報告書

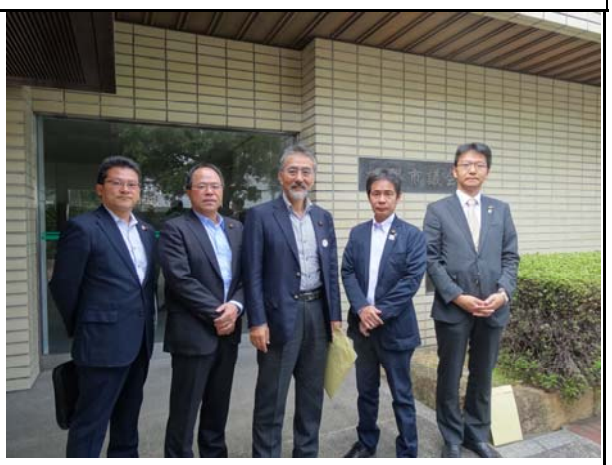
報告者：杉浦　久直

視　察　日	平成２９年１０月５日（木）
視 察内 容	姫路城保存修理及びそれに伴う観光施設の整備について
視　察　者	加藤義幸、山崎憲伸、鈴木静男、杉浦久直

＜姫路市の概要＞

兵庫県の南西部、瀬戸内海に面した播磨地方の中心都市。歴史的にも播磨国の国府が置かれるなど古くから発展し、池田輝政により築城された姫路城の城下町として、また近年は播磨臨海工業地帯の中心としても繁栄。国道２号線や山陽新幹線など主要交通軸上に位置する。９６年から中核市、また１５年に近隣市町との連携協約を締結し、播磨圏域連携中枢都市圏の中枢都市となった。

面積 534.35 ㎢　人口 532,994 人（平成２９年１０月１日現在）



＜世界文化遺産姫路城＞

姫路城は播磨国の豪族赤松氏が姫山に砦を築いたのが始まりとされ、その後砦から城郭へと所有者の交代に伴い順次整備され、現在の城郭は関ヶ原の合戦後、池田輝政が城主となった後の整備により形成された。国宝であった姫路城がユネスコにより世界文化遺産として指定されたのは平成５年で、法隆寺と並び国内初の指定であった。以後、より観光資源としての価値も上昇し、市内観光産業への貢献は大きくなっていた。

＜姫路城保存修理＞

姫路城は明治４３年の明治の大修理、昭和３１年から始まった昭和の大修理など、幾度かの保存修理が行われてきたが、平成２１年からの大天守の保存修理事業では、工事期間中の大天守に登れなくなること、大天守が見えなくなることによる観光への影響が危惧されていた。そこで、保存修理工事の過程を公開する常時公開施設の整備や、施設整備に合わせて、工事期間のみのバリアフリー化を実現するなど、工事そのものを観光資源とすることにより、その影響を緩和しようとする取り組みが行われた。また、工事後のグランドオープンに向けての姫路城周辺の整備等も行われた。

＜大天守保存修理見学施設・天空の白鷺＞

天空の白鷺と名付けられた保存修理工事公開施設の効果を見ていくと、修理前の姫路城入場者が平成２０年度が１２０万人弱、工事前の駆け込み増により２１年度が１５０万人超であったものが、工事開始後の２２年度が約４６万人と急減した。しかし、天空の白鷺の開館後の２３年度が約６１万人、２４年度が約７１万人、２５年度が約８８万人と回復増加させることができ、観光事業者からの評価も得られた。合わせて、通過型観光からの脱却「城プラスワン」としてまちなか周遊や夜間の魅力も高めるなどの取り組みや、グランドオープンを見据えた整備として、城を中心とした姫路公園内での wifi 整備や、園路、樹木、トイレの整備、場内展示や案内サインのリニューアル、混雑対策や、駐車場活用など様々な取り組みを同時並行して行うことにより、グランド

オープン後となる平成２７年度は２８０万人超の入場者数となった。

＜現在の課題、今後の展開＞

観光産業のさらなる振興を図るため「姫路城プラスワン」として姫路城から周辺への周遊を促す取り組みや、滞在型観光への転換をしてもらうための取り組みを進めている。周遊を促す取り組みとしては市街地、商店街への wifi 設置の推進や観光ループバス、レンタサイクル、コミュニティサイクルの運営など、また夜の魅力づくりとして、姫路城の夜間公開や観月イベントの実施などを行っている。また、姫路駅から姫路城への道路空間を含めた再整備も順次進められている。

〔感想・岡崎市への反映〕

・今までも姫路城は何度か訪れており、そのうち一度はまさに保存修理工事中に天空の白鷺から大天守の屋根の漆喰塗りを間近で見学したことがあり、時間による変化も感じられた視察となった。姫路市のように、国内においても随一の城郭史跡を有する市での取り組みは、今後の岡崎城をはじめとした歴史資産を活かした本市の観光産業都市の形成にとって先進事例としてとても勉強になることが多かった。中でも、滞在型観光への転換は観光の産業化にとって大きな課題であり、重要な取り組みであると考える。まず、城跡としての魅力の維持向上として、保存修理に合わせた周辺施設整備により、さらなる魅力向上がはかられたことは、以前訪れた時と比べ、案内板の多言語化やトイレなどの公園施設の整備充実により感じ取ることができた。岡崎公園においても、樹木の伐採や一部トイレの整備、wifi の設置などが行われているが、さらなる取り組みの必要性を感じた。また、周遊を促す取り組みとしてのコミュニティサイクルでは、姫路市においては、ステーションの設置が広範囲で行われているとともに、姫路市に本社を置く企業との連携で、自転車への企業広告の掲載がされていることも、見習うべきことであると感じた。滞在型観光への転換では、周辺への周遊による滞在時間の延長とともに、やはり夜間の魅力向上が欠かせないが、イルミネーションや夜間公開、観月イベントなどの取り組みが継続的になされていることは重要である。また、市として、入込客数、観光動向調査報告書が作成されていることは、施策を行うにあたり定量的な評価をしていく上で重要なことであり、本市としても今後しっかり取り組んでいく必要があると感じた。

・城内を案内いただいた担当者の説明とその中で何度も姫路城平成の大改修の折には、第天守を建屋で囲み、天空の白鷺として工事そのものを地域資源に活用し、観光客の男身を最小限の留めたということを強調して説明され、少し自慢めいてはいたが、姫路城に対する愛情と誇りを感じた。こういった思いは大切であると感じた。

・姫路城大天守保存修理工事により、大天守が見えなくなることなど、観光面で大きなマイナス面が発生するため、工事そのものを見せ、観光資源にしたことは、逆転の発想で大変素晴らしい。修理が終った後の公開では、入場料を倍にするなど、経営面でもしっかりと管理運営がなされている。

一番のネックは混雑・駐車場対策のようで、かなり苦労されたあとが見て取れる。本市においても、観光化とともに駐車場対策等も確実に進めるべきと考える。

・姫路城大天守保存修理により、観光面で大きなマイナスとなるところを、保存修理自体を常時公開する「天空の白鷺」事業により、観光面での影響を最小限に抑えることができ、その逆転の発想に驚いた。また、姫路城保存修理と合わせて、WiFi 整備やクレジットカード決済の導入などインバウンド対応も実施し、より幅広い観光客誘致への対応が参考となった。